

梓川・霞沢・焼岳生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局 中信森林管理署
所在地	長野県松本市
面積	2,572.24 ha
設定年月日	平成3年4月1日（平成8年分割、平成30年再編）
保護林の概要 （設定目的）	大正4年の大爆発による泥流で梓川をせき止め、大正池を出現させた焼岳は、現在も活動している北アルプス唯一の活火山である。松本市安曇から上高地に至る梓川沿いは、V字谷渓谷と水力発電用ダム湖及び周辺のミズナラ、カエデ等から構成される貴重な天然生広葉樹林となっており、これらの植物群落を一体的に保護することを目的とする。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和5年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（毎木調査・植生調査）を3プロット、高山植生調査を1プロット、森林概況調査として植物相調査・定点写真撮影を実施し、過年度の調査結果と比較した。
結果概要	ハイマツ群落等の高山植生やダケカンバ群落、高茎草本群落、亜高山帯針葉樹林、ブナ群落、針広混交林が確認された。過年度調査と比較して大きな変化は確認されておらず、保護林の健全性は保たれているが、ニホンジカの被害や痕跡が確認されており、また、気候変動や夏の濁水等により高山植生に影響が生じる可能性も考えられるため、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。